

# いろは新聞

令和4年3月発行 第45号  
発行元：福生市立中央図書館

福生市熊川 850-1  
TEL：042-553-3111

福生市立図書館  
ヤングアダルトページ



<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/young/>

## 図書館より



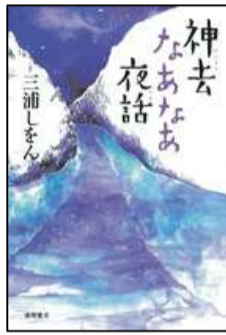
長かった冬が少しずつ終わりに近づき、春らしい陽気の日も増えてきました。この文章を書いている今は梅の花がちらほら咲き始めていますが、これが出るころには菜の花が見ごろを迎えていることでしょう。

さて、春といえば思い出す本が一冊あります。「小暮写真館」(宮部みゆき/著 講談社/出版 二〇一〇年)です。この本を読んだのは、私がYA世代だった12年前の春ですが、まず驚いたのはそのページ数でした。その数、なんと716ページもあります。かつて長編シリーズに挑戦して挫折したことがある私がこの本を読む気になったのは、本の表紙が理由でした。一面の菜の花畑と桜と青い空、まさに春らんまんといった様子のその美しい表紙は、今でも鮮明に思い出すことができます。そして、その表紙こそが最大にして最高の伏線なのです…。

この「小暮写真館」、今は分冊された文庫版が出版されているので、(物理的にも)手に取りやすくなったと思います。もちろん、私のおすすめは単行本ですが、文庫版も図書館で所蔵があります。ぜひ、好きな方でお試しく下さい。

(図書館)

## オススメ本紹介コーナー!



### 『神去なあなあ日常』

三浦 しをん/著

徳間書店(二〇〇九年)

### 『神去なあなあ夜話』

三浦 しをん/著

徳間書店(二〇一二年)

横浜生まれ、横浜育ちの主人公・平野勇氣は、高校を卒業したらフリーターで食っていこうと考えていた。成績はよくなかったし、かといってちゃん就職するのなんだか気が引けたからだ。将来のことはテキストになあなあにして(妥協して)生きていこうとしていたら、卒業式の日担任の熊やんから突然こう告げられる。「就職先を決めてきてやったぞ!」

「はあ!? 頼んでねえし! 必死の抗議もむなし、勇氣はその日のうちに三重県奥の山奥にある「神去村」へ放り込まれてしまうのだった。数日経って、ようやく勇氣は林業の現場に就職した(させられた?)ことを理解する。ケータイも圏外、コンビニはおろか、電車もろくに通っていない田舎で、慣れないチェーンソーを振るう勇氣。しかも相手にするのは森や山だけでなく、ダニにヒル、そして強面の先輩!?

「なあなあ」と「謎文化」が跳梁跋扈する神去村で、めまぐるしく過ぎていく日常と、勇氣のささやかな恋心。お仕事小説のレジェンド、三浦しをんが送る仕事×青春ストーリー!!

続編の「神去なあなあ夜話」と映画版の「WOOD JOB!」もあわせてどうぞ!



### 『シリアで猫を救う』

アラール・アルジャリール

With ダイアナ・ダーク/著

大塚 敦子/訳

講談社(二〇二〇年)

勤勉な電気技師だったアラール・アルジャリールは、2011年に始まったシリア内戦の戦火が自分の住む町に及ぶと、私財をなげうって自前の救急車を走らせ、負傷者の救助を始めました。空爆をかくぐり、破壊された町を走りまわるうちに、アラールは飼い主に置き去りにされた猫や犬も、自分たちと同じ戦争の被害者なのだと思えます。彼は負傷者の救助と並行して、動物たちの保護施設「エルネスト・サンクチュアリ」を作ります。ネットを通じて、彼の活動に対する支援は世界へと広がっていきますが、内戦は日に日に激しさを増していきます。

残酷で狡猾な戦争の前に、ネットで繋がれた善意はどこまで広がっていくのか。厳しい状況下にあってもやさしさと思いやりの心を忘れないアラールから、最前線のレポートです。

### 編集後記

4月から、もう1年が経とうとしていることに驚きです。早い…。また、1年楽しんでいきましよう。



きつと最後のいろは新聞。好きなことが少しでも貢献できていたのなら嬉しいです。ありがとうございました。

y

図書館から  
重要なお知らせ



福生市立中央図書館は、空調設備等の大規模改修工事のため、令和4年4月1日(金)から、令和5年12月末(予定)まで、休館します。休館中は、臨時窓口を開設し、一部のサービスをを行います。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくは、図書館ホームページをご覧ください  
(<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/>)



小花